平成30年11月28日

平成３０年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３０年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成30年4月17日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	４１人	国語Ｂ	４１人
②	算数Ａ	４１人	算数Ｂ	４１人
③	理科	４１人		

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

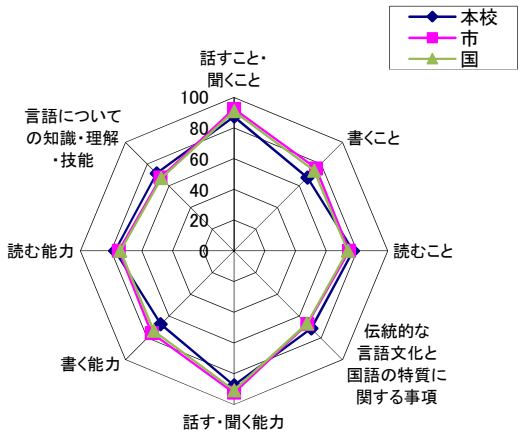
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

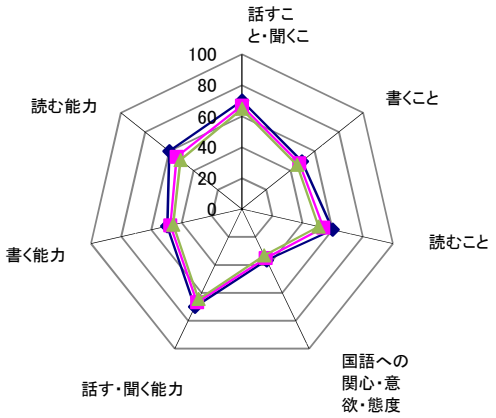
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	87.5	92.4	90.8
	書くこと	67.5	75.7	73.8
	読むこと	77.5	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	87.5	92.4	90.8
	書く能力	67.5	75.7	73.8
	読む能力	77.5	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	71.3	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.0	66.8	64.6
	書くこと	49.5	47.4	45.6
	読むこと	60.0	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.7	35.2	33.2
	話す・聞く能力	70.0	66.8	64.6
	書く能力	49.5	47.4	45.6
	読む能力	60.0	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

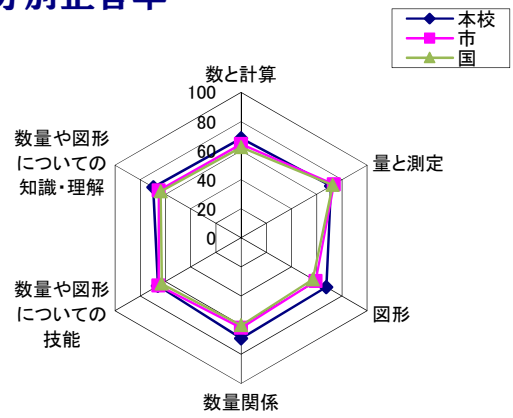
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○Bでは正答率が70.0%と全国や市を上回っている。特に計画的に話し合うための司会者の役割については92.5%と全国より15ポイント以上高く良好な状況が見られる。 ●Aでは正答率が87.5%と全国より3.3ポイント，市より4.9ポイント低い。相手や目的に応じ，自分が伝えたいことについて事例を挙げながら筋道を立てて話すことに課題が見られる。	・授業で相手や目的に応じ，自分が伝えたいことについて事例を挙げながら筋道を立てて話すことや，分かりやすい説明の仕方（工夫）を指導し，日常生活の中で活かせるようにする。 ・話し合いの場で相手が話すことを聞いたり，それに対して自分の考えを発表したりする場を設定し，実体験を積み重ねていく。
書くこと	○Bでは正答率が49.5%と全国より3.9ポイント，市より1.9ポイント高い。特に，ある食べ物を推薦するためには，他の物と比較して書くことで，よさが伝わることが十分理解されていると考えられる。しかしながら記述式の解答では，無回答率が全国よりも高いものがある。 ●Aでは正答率が67.5%と全国や市を下回る。自分の想像したことを物語に表現するために，文章をどう構成すれば効果的であるかについて考えることに課題が見られる。	・自分が考えたことを自分の言葉でまとめる学習を，字数を限定して国語のみならず各教科で実施していく。 ・文を書く前に構成の工夫などを確認し,意識して書かせるようにする。 ・目的意識をもって書けるように課題の提示を行い，複数の条件のもとで書く練習を取り入れていく。
読むこと	○Aでは正答率が77.5%と全国や市より高い。登場人物の心情を読み取ったり，目的に応じて情報を捉えたりすることについては良好な状況が見られる。 ○Bでも正答率が60.0%と全国や市より高い。目的に応じて，複数の文章などを選んで読むことについて良好な状況が見られる。しかしながら記述式の解答では，無回答率が15%であり，全国よりも3.1ポイント高い。	・資料の中から課題解決に必要な文章を読み取り，まとめたり伝えたりする学習を通して，内容を理解し活用する力の向上を図る。 ・目的に応じて複数の本を読んだり，文章の内容を的確に捉え自分の考えを明確にしたりしながら読む力をつけさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○Aでは正答率が71.3%と全国や市より3ポイント以上高い。日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使うことについては正答率が92.5%と高く，相手や場面に応じて適切に敬語を使うことについては，正答率が70%で県や全国より10ポイント以上上回っており，良好な状況が見られる。 ●文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことは30.0%と全国や県より5ポイント程度低く，無答率も高いので，今後の課題である。	・漢字の力をより定着させるために，漢字練習の課題に引き続き積極的に取り組ませるとともに，いろいろな活用場面を意識して練習させるようにする。 ・日常生活で，相手や場に応じて適切に敬語が使えるよう指導していく。 ・日頃から文章を読んだり書いたりするときに主語・述語の関係を意識させる。

宇都宮市立中央小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

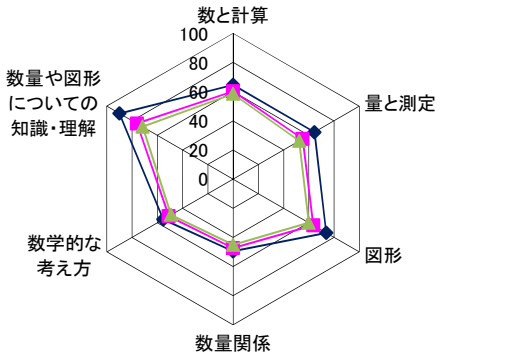
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	68.5	64.5	62.3
	量と測定	71.3	73.6	72.7
	図形	67.5	59.1	56.9
	数量関係	69.0	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.0	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	69.7	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.6	60.2	58.4
	量と測定	64.4	55.0	52.4
	図形	73.8	63.5	59.9
	数量関係	49.5	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	55.3	51.0	49.2
	数量を図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	90.0	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

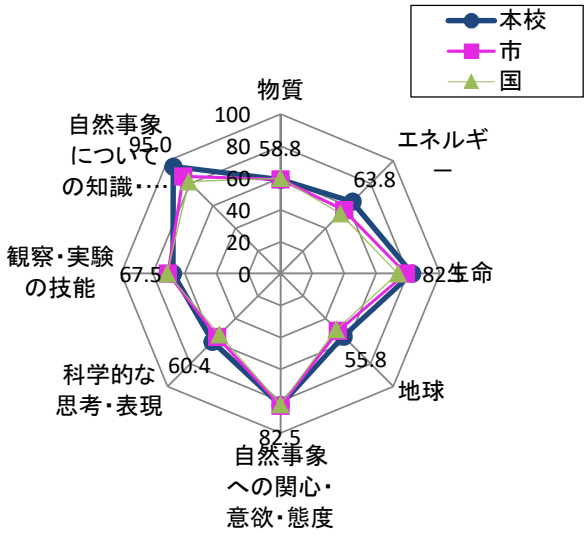
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A・B共に市や国の正答率を上回っている。特に小数や整数の四則計算のほとんどの正答率が高い。小数の除法の問題では，国より10ポイント以上上回った。 ●Bでは，示された考えを解釈し，条件を変更して数量の関係を考察し，分配法則に表現する問題では，正答率が57.5%で県や市を下回り，無回答も10%と高かった。	・分配法則の課題を授業または宿題等で行い，授業においては理由を記述する問題に取り組ませる。 ・ステップアップテストや朝の学習タイム，家庭学習を利用して，繰り返し計算練習する機会を確保し，小数・分数の四則計算力の定着を今後も図っていく。
量と測定	○Bでは，市や国の平均を10ポイント程度上回った。特に，示された情報を解釈し，条件に合う時間を求める問題で，市や国を17ポイント程度上回った。 ●Aでは，市や国の平均を1ポイント程度下回った。特に，180°や360°を基に分度器を用いて，180°よりも大きい角の大きさを求める問題で，市や国の平均より8ポイント程度下回った。	・授業の中で具体的な操作活動を取り入れ，学習活動を通して，長さ，大きさ，量感をつかむことができるようにしていく。 ・基礎的な力の定着のため，これまでと同様に復習問題に取り組ませる。授業においては理由を記述したり，互いに説明し合ったりする活動を取り入れ，考える力を育てていく。
図形	○A・B共に市や国の正答率を10ポイント程度上回っている。特に算数Aにおいては，円の直径の長さと円周の関係について理解する問題において正答率が70%で，国の正答率を15ポイント程度上回った。 ●Bでは，図形の構成要素や性質を基に，集まった角の和が360°であることを記述する問題で10%程度の児童が無回答であった。	・具体物による操作活動を通して，それぞれの図形の性質を理解し，図形に対する興味・関心を高めることができるようにする。 ・発展的な学習活動を多く取り入れ，学習したことを生かして課題を解決する楽しさを味わわせ，意欲の向上を図る。 ・授業において理由を記述する問題に多く取り組ませる。
数量関係	○A・B共に市や国の正答率を5ポイント程度上回っている。特にAにおいては，折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題で，国の平均を10ポイント程度上回った。 ●Bでは，メモの情報とグラフを関連付けて総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述する問題で，20%以上の程度の児童が無回答で，県や国より高かった。	・表やグラフを正しく読み取らせる問題に多く取り組ませるようにする。 ・学習した内容を算数のみではなく，「総合的な学習」や児童会活動など，様々な領域や活動にも生かせるようにし，表やグラフを日ごろから活用しながら，思考力や表現力の向上に生かすようにする。

宇都宮市立中央小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	58.8	59.0	59.8
	エネルギー	63.8	56.4	53.1
	生命	82.5	78.6	73.6
	地球	55.8	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	82.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	60.4	56.1	54.1
	観察・実験の技能	67.5	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	95.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	●平均正答率は，市や全国の平均正答率をやや下回っていた。ろ過の適切な操作方法についての問題では，県や国の平均正答率を下回った。また，食塩水を加熱したときの実験で，その結果から導き出せる結論について記述する問題で，無解答率が5%とやや高い割合であった。	・ろ過についての実験はグループで行うことが多かったが，グループ内の活動であっても自分が取り組んでいる意識をしっかり持たせたい。そして何を学んでいるのかきちんととらえさせて学習を進めるようにしたい。自分の考えや分かったことを言葉で表現する活動を設定し，学んだことを表現する力を伸ばしていきたい。
エネルギー	○平均正答率は市や国に比べて，7ポイント以上上回った。電流に関する問題では，どの問題においても，全国の平均を上回る結果となっていた。	・電流に関しては，学校での指導において各個人で実際に取り組ませることができた。今後も可能な限り実験用具を用意し，一人一人が実際に作業や実験を行い，理解を確実なものにできるように留意していきたい。
生命	○平均正答率は，市より3.9ポイント，国より8．9ポイント上回る結果が得られた。すべての設問で全国の平均正答率を上回ることができた。中でも，骨と骨のつなぎめについて，語句や概念についての問題の正答率は，97.5%で，国より18ポイント以上上回っていた。	・学習内容が確実に理解できるように，普段の授業・学習を大切にし，身近な自然事象に対して，興味・関心を持てるような提示を心掛け，知的好奇心，探究心を育んでいくようにしたい。
地球	○平均正答率は市より4.9ポイント，国より6.3ポイント上回る結果が得られた。堆積作用について科学的な言葉や概念の理解についての問題では，平均正答率が90%を超え，国や県の正答率を8ポイント以上上回った。	・実験を行う前にしっかりと予想を立てさせ，その予想から考えられる結果と，そこから考察をするプロセスを大切にして，実験・観察の意味を持たせるように指導していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがある」と答えた児童は92.7%で，全国より8.7ポイント，県より7.3ポイント高く，自己肯定感をもつことができている児童が多い。
○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童が100%，「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」と答えた児童も100%であった。自分の取るべき行動を正しく判断する力が身についていると考えられるので，実際の行動面でそれが実行できるようにしていきたい。
○放課後の過ごし方では「家で勉強や読書をする。」「家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームやインターネットをしたりしている」と回答した児童の割合は，国や県よりも下回ってる。また，「スポーツをする」と答えた児童の割合は，全国より25.2ポイント低かった。一方で，「放課後子供教室や放課後児童クラブに参加している」児童の割合は，全国より19.8ポイント，「学習塾で勉強している」児童の割合が，全国より21.5ポイント高い。また，週末の過ごし方についても，「学習塾」が全国より10.7ポイント，「地域の活動に参加している」児童が全国より10.5ポイント高い。このことから，放課後や休日は，家にいるより学習塾に行ったり，地域の活動に参加する児童が多いことが分かる。自分の目標に向かって努力したり，人との触れ合いの時間を大切にしたりしていることも分かった。そして，地域ボランティア活動への参加が全国より5.4ポイント高かったことからも，地域との関係が密接であることが伺える。
●生活面で，「毎日同じ時刻に寝る」が全国より3.8ポイント，県より7.7ポイント低い。「毎日同じ時刻に起きる」は，全国より1ポイント，県より3.5ポイント低い。生活のリズムを作るためにも決まった時刻に寝たり起きたりできるよう，家庭に呼びかけていきたい。
●家で宿題をしている児童は100%だが，予習・復習をしていると答えた児童は24.4%と全国より3.3ポイント，県より11.7ポイント低いので，自主学習での予習・復習の大切さを啓発していきたい。
●読書については，平日の学校の授業時間外での読書時間は10分未満という児童が44%と全国より10.4ポイント，県より11.8ポイント高い。2時間以上読む児童は0%で全国より7.8ポイント，県より6.5ポイント低かった。このことから，読書に対する興味関心があまり高まっていないことが考えられる。読み聞かせやおすすめの本の紹介，学校での読書時間の確保等を通して，本に親しむ機会を多く設定し，本が好きな児童を育てていきたい。
○「算数の勉強は好きですか」の質問についての回答では，肯定的割合が78%で県平均・全国平均よりも10ポイント以上上回っていた。今後も算数の授業の教材研究や指導方法を工夫することで，算数の学習に対する興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立中央小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
意欲をもって学習に取り組むことができる課題設定の工夫	児童が「解決したい」「知りたい」という気持ちをもてるよう，知的好奇心を高めるような課題を設定したり，提示の仕方を工夫したりしている。	「算数の授業で新しい問題に出会ったとき，それを解いてみたいと思う」についての肯定的回答割合は85.3%で，県や国の平均を上回っている。 「算数の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合は82.9%で，県や国の平均を上回っている。
授業の目標に対する振り返り活動の充実	授業の始めに目標を示し，最後に振り返りを書く活動を設定している。1時間の学習に，目標意識や見通しをもって取り組ませたり，学習を通して分かったことやできるようになったことを確認させることで，課題をやり遂げた達成感を味わい，次の学習や実践への意欲へとつなげていくことができるようにしている。	「理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えているか」についての肯定的回答割合は，92.7%と高く，県や国の平均を上回っている。 「理科の授業を受けた後に，習ったことに関わることでもっと知りたいことが出てきた」と答えた児童は82.9%で，県より3ポイント，国より7.8ポイント上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	漢字の小テストやステップアップ検定を定期的に実施したり，毎週の朝の学習の時間に，担任以外の教員も加わった複数の指導者による学習支援の時間を設けたりすることで，学習の基礎となる力を定着させるような取り組みを行っている。	国語Aの「言語についての知識・理解・技能」の観点においては，正答率は71.3%で，市，県，国の全ての正答率を上回っている。 算数Aについての平均正答率は，68%で国より4.5ポイント県より5ポイント上回っている。
家庭学習の充実と習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習マイプラン」を活用し，宿題を含めた毎日の家庭学習の内容や時間を記録させることを通して，家庭での学習に対する目的意識をもち，自主的に取り組めるような習慣づけを目指している。	「家で自分で計画を立てて勉強している」についての肯定的回答割合は73.2%で，県や国の割合を上回っている。 「家で学校の宿題をしている」についての肯定的回答割合は100%で国や県を上回っているが，「学校の授業の予習・復習をしている」については，肯定的回答割合が70.7%で県を下回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語Aの調査において，文章の構成の効果を考えて書く内容で，平均正答率が市・県・国を下回り，課題が見られた。また，国語Bの調査でも，自分の考えをまとめて記述する問題についての正答率は国や県をやや下回り，無回答率も国や県より高かった。	構成や目的を考えて「書く」活動の充実	構成の効果を理解し，自分の思いを伝えるための最適な構成を考え，文章を書けるような指導を行う。 授業の中で，自分の考えを書き表す活動を意図的に取り入れていく。